

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- よく分かる授業・考えを深め合う授業の創造
- 学校と家庭との連携による、生活・学習習慣の確立

林崎小学校  
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 豊崎恵巳	委員 校長:平野貴義 教頭:片山宏美
	教務主任:前田尚子 研修主任:和田紀子
	学年主任:佐藤由香・櫻井真理・中島有佳利 桑野加奈
	庄司晶代 特別支援教育コーディネーター:藤澤浩子

校長

平野 貴義

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○●国語科・算数科ともに上位層と下位層に二極化する傾向があり、個人差も大きい。 ●文章の中で正しく漢字を使うことや、数量や図形等に関する基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着が課題である。	・漢字の読み書きができ、既習漢字を文章の中で正しく使うことができる。 ・数量や図形等に関する基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができている。	・児童が進んで既習漢字を使うことができるよう、日記やノートで指導を行う。 ・数量や図形等に関する基礎的・基本的な知識・技能が定着するよう、ICTや補充プリントを活用して指導を行う。 ・朝の学習(チャレンジタイム)で、漢字や計算等の指導を行う。 ・個別最適化を図るための指導法の一つとしてタブレットを効果的に活用する。			

【各校の取組状況の把握について】

授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを表現することができる児童は増えてきている。 ●目的に応じて、理由や根拠を明らかにしながら自分の考えを書いたり話したりすることに課題があり、個人差も大きい。	・目的に応じて、理由や根拠を明らかにしながら自分の考えを進んで書いたり話したりすることができる。	・自分の考えを表現する機会を増やし、発表の仕方を指導していく。 ・ノートに自分の考えや授業の振り返りを書く時間を設定し、表現力の育成を図る。 ・タブレットを効果的に活用するなどして、子どもたちが思考したことを共有できる場を確保していく。 ・各学年に応じて、教科書以外の様々な教材に触れる機会を多く作り、読解力を育てる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習規律の定着にまじめに取り組む児童がいる。図書室を積極的に利用する児童も増えてきている。 ●週明けなどに生活リズムが乱れ、集中して学習に向かうことが困難な児童がいる。生活習慣の乱れから、家庭での学習時間が少ない児童もいる。	・規則正しい生活習慣や学習習慣を身につけ、進んで読書や家庭学習に取り組む、自ら学ぶ楽しさを実感できている。	・共通理解をしっかりと行い、全教職員で生活指導や学習指導を重ねる。 ・PBSについての研修を行い、指導体制をより一層整えていく。 ・引き続き図書館サポーターや市立図書館との連携を充実させ、全員に読書の機会を増やしていく。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

